

# SHOW HEY シネマールーム

★★★

## パラダイス・ネクスト

2019年/日本、台湾映画  
配給：ハーク/100分

2019 (令和元) 年8月9日鑑賞

シネ・リープル梅田

Data

監督・脚本・音楽：半野喜弘

出演：妻夫木聡／豊川悦司／ニッキー・シエ／カイザー・チュアン／マイケル・ホアン／大鷹明良

### ■ショートコメント■

◆本作のチラシには、「妻夫木聡×豊川悦司」、「南国台湾。男2人、行き先不明の逃避行」、「楽園の果てには、何がある？」の見出しが踊っている。そして、「豪華キャスト&スタッフが集結し、アジア映画界に新境地を拓く必見作！」の見出しで、次のとおり紹介されている。

日本映画界において名実ともにトップクラスの俳優 妻夫木聡と豊川悦司がダブル主演を果たし、全編台湾ロケでの撮影に挑んだ話題作。台湾の気候や風土のなかで醸し出される主演二人の他の映画では見せなかった相性は本作ならではの魅力だ。二人の「運命の女性」であるヒロインを『黒衣の刺客』でも妻夫木聡と共演した台湾の人気女優ニッキー・シエが好演。ロングランヒット映画『目撃者 闇の中の瞳』主演のカイザー・チュアン、台湾を代表するマルチタレントのマイケル・ホアン、『アウトレージ 最終章』の大鷹明良が脇を固める。

監督は、ホウ・シャオシェンやジャ・ジャンクーなど名匠たちの映画音楽で知られる半野喜弘。日本が誇る世界的作曲家・坂本龍一のテーマ曲も加わり、豪華メンバーたちによる珠玉の一作がここに完成した。

◆また、ストーリーは次のとおり紹介されている。

世間から身を隠すように台北で生きる男・島(豊川悦司)の前に、突然お調子者で馴れ馴れしい男・牧野(妻夫木聡)が現れる。牧野は初めて会う島の名前を知っており、島が台湾にやって来るきっかけになった“ある事件”のことを知っていると言う。その牧野が何者かに命を狙われていることを知った島は、追手から逃れるため牧野を連れて台北から花蓮へ向かう。花蓮に辿り着いた二人の前に、シャオエン(ニッキー・シエ)という女性が現れる。この運命の出会いによって、牧野と島の閉ざされた過去が明らかになり、二人の逃避行は楽園を探す旅に変わっていく…

このチラシを読めば、本作は必見！そう思って勇んで映画館に行ったら、館内はガラガラ。10人にも満たないありさまだったから、アレレ・・・？

◆冒頭、台湾の食堂で一人ラーメン(?)を食べている島(豊川悦司)の前に牧野(妻夫木聡)が現れ、二人でラーメンを食べながら話し込む(?) シークエンスが登場する。そ

ここでは、無口な島とベラベラよく喋るお調子者の牧野の対比が顕著だが、本作はラストまでその対比が続いていく。演技達人な2人がその対照的な役柄に徹しているのは当然だが、こりゃ、ちょっとやり過ぎでは・・・？

◆1年前の「ある事件」をきっかけに、日本から台湾へやってきたヤクザの島。それを迎え入れた地元のボスであるガオ（マイケル・ホアン）。そして、島に続いて台湾にやってきた加藤（大鷹明良）らが物語を形成していく。加藤は島に牧野の写真を見せて、「この男を探して殺せ」と命令。そんな背景の中、本作中盤は島と牧野の奇妙な絡みが続いていくが、無口な男・島 v s お喋り男・牧野の構図がずっと続くので、いい加減うんざり・・・。

◆そう思っていると、舞台はある日、台北から私も行ったことがある東海岸の美しい町、花蓮に移り、花蓮のバーで日本語を話す台湾人女性シャオエン（ニッキー・シェ）が登場してくる。この女はナニ者？それが本作の大きなポイントになるが、シャオエン役を演じるニッキー・シェの魅力が私にはイマイチ。冒頭の出会いで牧野が島に対して吐いた「あのパーティ会場にいた」「俺はあんたの救世主なんだ」との言葉の謎とあいまって、シャオエンが後半のストーリーを牽引していくのだが、そのため、ストーリーの魅力もイマイチ・・・。

◆本作は全編を通じて、台湾の美しい風景と半野喜弘監督の音楽、そしてスタイリッシュな演出がセールスポイントだ。それはそれでわかるのだが、本作の演出をホントにスタイリッシュと言うの？それが私には疑問だ。そのため、せっかく妻夫木聡と豊川悦司という二枚看板を共演させ対峙させても、トータルとしての魅力を引き出せていないのでは・・・？しかして、本作の興行収入は **How much?**

2019（令和元）年8月16日記